

Strix 10: 285-290 (1991)

アカゲラとアリスイによる発泡スチロール製擬木の利用

村井雅之¹・樋口広芳²

はじめに

近年の自然林の大規模な伐採や開発により、キツキ類の営巣場所に適した大きな木は急速に減少していると推測される。こうした状況に対処するひとつの方策として、北アメリカで考案された発泡スチロール製の擬木をもちいて1989年4月より北海道ウトナイ湖畔において架設実験を行なった。架設実験の結果、1989年4月にはヤマゲラの利用が確認された(築田・樋口 1989)、その後、1991年4月より架設した2本の発泡スチロール製擬木で、アカゲラとアリスイの営巣が確認され、アカゲラでは育雛が、アリスイでは巣立ちヒナが確認されたので、報告する。

報告にあたり、設置および観察、撮影に協力していただいた大畑孝二、根本聡、鈴木要、溝口功一の諸氏、および報告書をまとめるにあたってご助言をいただいた大畑孝二氏に厚くお礼申し上げる。

擬木の形状と設置方法

使用した擬木は発泡スチロール製で、高さ900mm、直径400mmの円筒形である。表面は周辺の環境に溶けこみ、キツキ類が警戒しないよう、市販の塗料をもちいて焦茶色に着色した。1989年の架設実験結果(築田・樋口 1989)を参考にして、通気性、透湿性をよくするために、底面より上方に、深さ約700mm、直径約5mmの穴を25個、熱した針金を使ってあけた(図1)。擬木はA、B2地点に1個ずつ設置した。A地点は(図2の左)、ヤチダモ *Fraxinus mandshurica*、ハンノキ *Alnus japonica*、エゾノバッコヤナギ *Salix hultenii* var. が多く、平均樹高4mほどの明るい疎林、B地点は(図2の右)、コナラ *Quercus serrata*、ミズナラ *Q. mongolica* が多く、平均樹高7mほどの林である。

擬木を木にくくりつけるさいには、巣の入口が少し下を向くよう、傾いた幹を選び、正面がある程度開けた環境になるように配慮した。A、B両地点での設置条件は表1のとおりである。

表1. 擬木の設置条件.

Table 1. The specifications for artificial nest cylinders.

		A地点	B地点
擬木底面の地上高	Height from the ground	2.0m	3.0m
方 向	Direction	北	北西
樹 種	Tree species	ハンノキ	ミズナラ
観察路からの距離	Distance from trail	20m	20m

1991年10月23日受理

1. 日本野鳥の会ウトナイ湖サンクチュアリ。〒059-13 北海道苫小牧市植苗 150-3
2. 日本野鳥の会研究センター。〒150 東京都渋谷区東 2-24-5

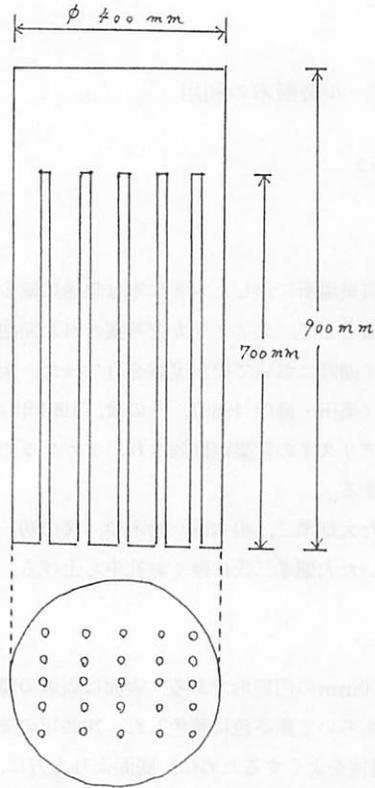


図1. 擬木の構造.

Fig. 1. The structure of a polystyrene cylinder for woodpecker nesting. Twenty five fine holes are drilled for ventilation.



図2. 擬木の設置環境 (左, A地点, 右, B地点).

Fig. 2. Environment of site A (left) and B (right). Wrynecks and Great Spotted Woodpeckers used the artificial nest cylinder.

営巣経過

A地点には4月10日にとりつけ、4月19日に突ついた跡があるのを発見した。その後、アリスイが擬木の上でさえざったり、求愛給餌をするのを観察した。以下に7月下旬までの観察記録を記す。

- 4月19日 擬木上面より約10cmの位置に突ついた跡を発見。
- 5月22日 16:00 突つかれた位置に巣穴があいていた。
- 6月12日 5:30 アリスイが擬木上でさえざったが、巣穴へは出入りしていなかった。
- 6月19日 7:00 ”
- 7月10日 5:30 アリスイがアリのサナギを口にくわえ、巣穴に入るのを確認。
- 7月14日 7:00 擬木付近で巣立ちヒナの声と姿を確認。
- 7月24日 7:30 巣穴へ親鳥が出入りするのを観察されず、巣穴内からヒナの声も聞こえないため、ヒナが巣立ったと判断し、擬木をとりはずした。

B地点には4月5日にとりつけ、4月19日に突ついた跡があるのを発見した。アカゲラが穴から顔を出すのや、ヒナへの給餌(図3)、フンの運び出しが観察されたが、巣立ち前に巣が壊されてしまった。ヒナは捕食されたと思われる。営巣の経過は以下のとおりであった。

- 4月19日 擬木上面より約30cmの位置に突ついた跡があるのを発見。
- 4月23日 穴が大きくなり深くなっていた。
- 5月4日 アカゲラの雌雄が巣穴より顔を出した。
- 6月8日 14:43 雌が食物を運び、すぐに出た。
- 15:17 雄が食物を運び、巣から出る時にフンを運び出した。



図3. 給餌中のアカゲラ。

Fig. 3. Feeding of Great Spotted Woodpeckers at the nest.

- 15:31 雌が食物を運んだ。
 15:33 雄が食物を運んだ。雌雄とも少しの間巣穴の中にいた。
 15:38 雌が巣穴から出た。
 16:04 雄が巣穴から出た。

6月12日 15:00 擬木が上面より破壊されているのを発見。雌が破壊された巣穴の入口付近に食物をもってとまっていた。

15:10 雌が飛び去った。

16:30 巣穴使用不能と判断し、とりはずした。巣穴内にヒナはいなかった。

2本の擬木はとりはずしたのち、巣穴の計測などのため縦に切り割った。A地点のアリスイの巣穴の底には、突ついた時に出了と思われる発泡スチロールのけずりくずと、ばらばらになったアリの死骸が入っていた。また巣穴内部には、透湿性のためにあけた穴が8本通っていた。この巣穴では、入口より産座へ向かう通路が、ほかのキツキ類では斜め上方に向かったのち、下方に向かうのに対して、一直線に下方の産座に向かってつくられており、産座に至る通路も狭くて長かった(図4)。

B地点のアカゲラの巣穴の底には、突ついた時に出了と思われる発泡スチロールのけずりくずが少量あり、黒く汚れていた。通気穴は2本通っていた(図5)。巣穴の破壊跡に残されたくちばしの大

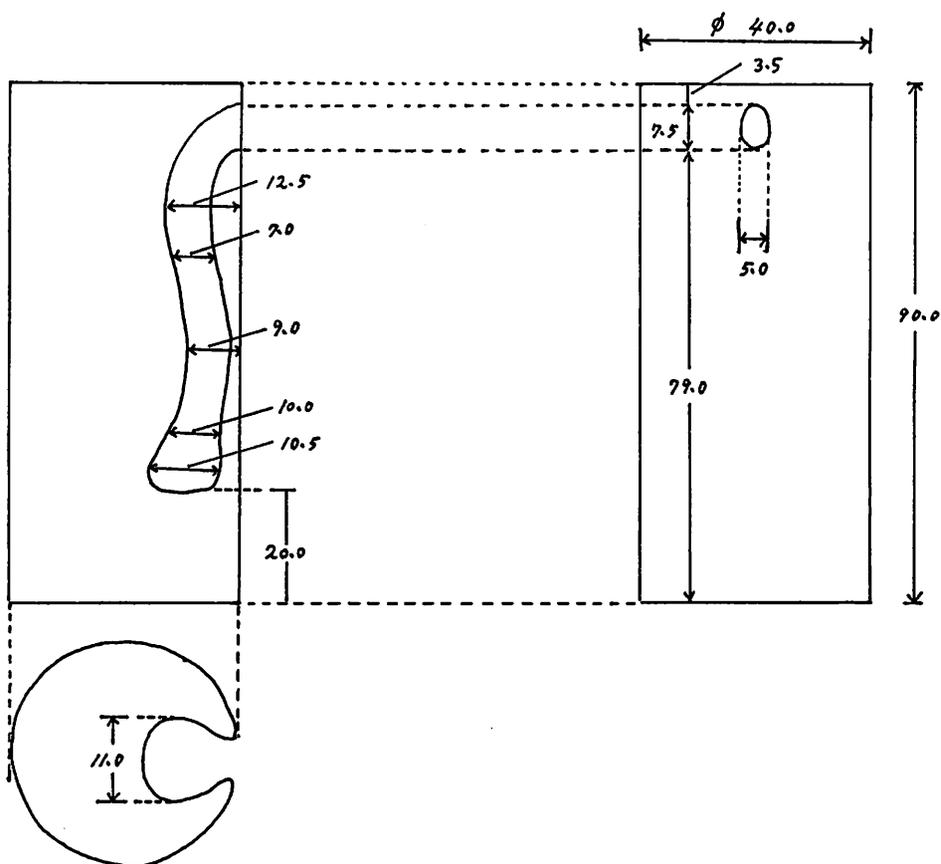


図4. アリスイ(A地点)の巣穴の形状。図中、単位はcm。

Fig. 4. The shape and measurements (cm) of the nest cavity excavated by Wrynecks.

きさや、巣穴の破壊状況などから、ハシボンガラスまたはハシブトガラスが巣を破壊した可能性が高い。

1989年の擬木の架設実験では、造巣までは確認されたが、育雛および巣立ちまでには至らず、その原因のひとつとして巣穴内部の通気性および透湿性の悪さが指摘された（築田・樋口 1989）。今回は、擬木に合計25個の小穴をあけ、巣穴内部の通気性および透湿性の改善に努めた。縦に割ってみた結果では、巣穴内にはたしかにあらかじめあけられた小穴が貫通していたが、これが巣穴の内部環境にどの程度影響していたのかは明らかでない。

通常みずから穴を掘らないアリスイが擬木にみずから穴を掘って営巣したことは、注目に値する。これは、発泡スチロール製の擬木が巣穴を掘りやすい材質であることを示唆しているが、アカゲラでは巣穴が外敵に簡単に破壊されてしまった。今後は、擬木の材質をさらに検討する必要がある。

引用文献

築田貴司・樋口広芳. 1989. ヤマゲラによる発泡スチロール製人工営巣木の利用. *Strix* 8: 275-281.

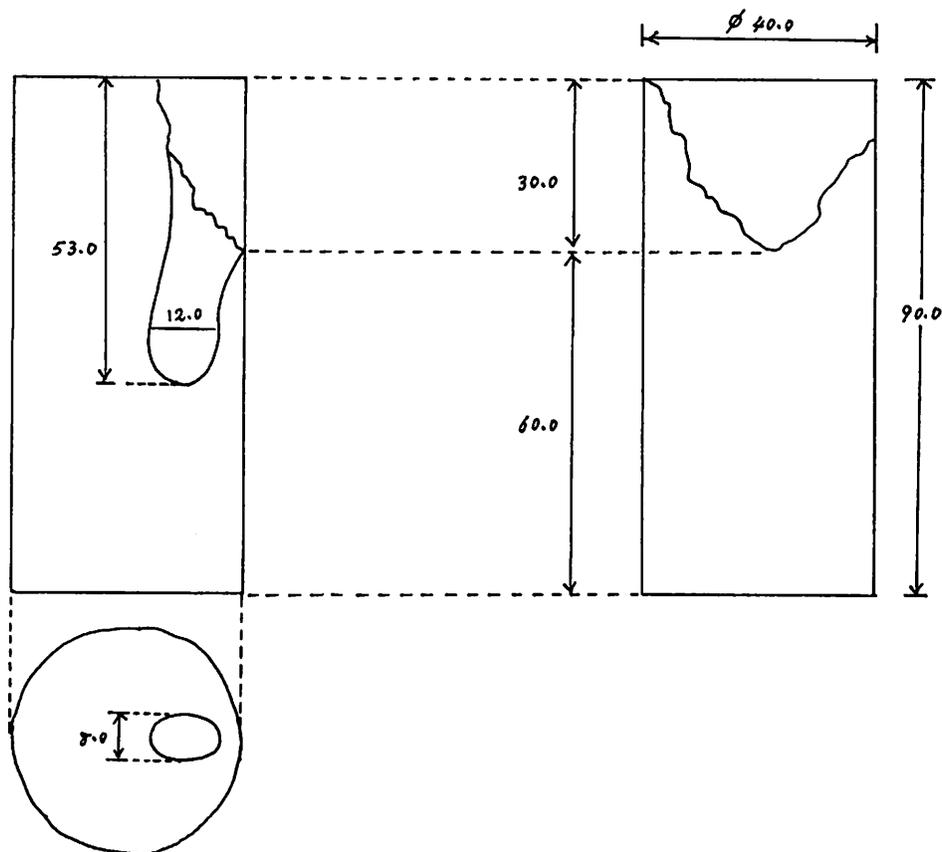


図5. アカゲラ（B地点）の巣穴の形状。図中、単位はcm.

Fig. 5. The shape and measurements (cm) of Great Spotted Woodpecker's nest cavity.

Nesting of Great Spotted Woodpeckers and Wrynecks in artificial cylinders

Masayuki Murai¹ and Hiroyosi Higuchi²

Two polystyrene cylinders, 40cm in width and 90cm in depth, were placed in the Utonai-ko Sanctuary of Hokkaido in April 1991. Great Spotted Woodpeckers *Dendrocopos major* and Wrynecks *Jynx torquilla* used the cylinders, and Wrynecks succeeded in fledgling the young. The nest of the Woodpecker was destroyed by a crow or something else.

1. Utonai-ko sanctuary. Uenae 150-3, Tomakomai-shi, Hokkaido 059-13
2. Research Center, The Wild Bird Society of Japan. Higashi 2-24-5, Shibuya-ku, Tokyo 150